

卑劣な差別扇動に批判

川崎市長選 宮部氏が選挙ヘイド

差別禁止法

時代の正体

川崎市長選に立候補して
いるレインスト、宮部龍彦
氏(46)のテーマに基づく差別
扇動に批判が高まっています。
。彼は元市議会議員で、元議員の立候補者へ

差別を長年続ける偏執ぶりで知られるそのやり口は、差別されている側に問題があるかのようにねじ曲げた二点、(時事)地名の日本化

「叩いてもよい対象」としてインターネット上にさらりと「悪辣なもの」。18日は在日コリアン居住地区の川崎区桜本に「皆様が期待する場所に行きます」と告げて街頭演説を行い、差別者たちの攻撃を狡猾に煽る卑劣な手口が市民の抗議を浴びた。

富部氏は部落差別は存在しないといふ虚偽を前提にして、差別を訴えることを

2019年にはあらゆる
差別を禁じる市条例も市議
会の全会一致で制定され、

うメールを「偏った教育」の証拠のように読み上げたが、内容が事実かどうか詳

きは『中立化』といふわざとした言い方をしているが、差別をしたいという本音が

市民の抗議を浴びる中、差別を煽る選挙ヘイトを配信する宮部氏(中央)

三八、日本商店



細を確かめたのかについて問うた神奈川新聞社の取材に、確認はしていない旨を説明した。宮部氏は市内各地の選挙演説で「政治的に偏向した講演が行われていた」とも吹聴しているが、いつ誰がどのような講演をしたのかという質問に対し、ては答えられなかった。

よく分かった。とても攻撃的で恐ろしい」と話した。
ふれあい館の人権尊重教育講座を何度も聴講している横浜市民の高畠修さんも、「子どもたちが多様なルーツを隠すことなく民族名で

呼び合へふれあい館は人権と平和を守る地域の拠点だ。それをつぶすなんて人権や平和の破壊者に他ならず、市長選に出る資格からしてない」と断じた。

と明記する条例に基いており、市教育委員会の担当者も取材に「多様な視点から語られる人権・平和教育は正誤や優劣があるものではなく、市教委が館の指定管理者に委託した事業が偏っているという認識はなく」と説明している。

桜本での演説を終えた室
部氏は「ふれあい館を廃止す
る」と口走り、抗議に駆け付けた川崎市民は「表

1